

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム百葉わらしな
(ユニット名)	グループホームモモハワラシナ
所在地 (県・市町村名)	静岡県葵区羽鳥1420-7
記入者名 (管理者)	福地太郎(所長)、上田奈津子(管理者・計画作成担当)
記入日	平成19年 5月18日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	湖山医療福祉グループの理念 「自らが受けたい医療と福祉の創造」の実践。 ・個を大切にし、心を満たす医療・福祉の実現 ・よろこびと感動の共有 ・安全と健全な発展	○	法人・グループでの理念のうち、地域ニーズの優先度に合わせて優先順位を設け積極的に推進したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を冊子として携行し、職場に掲示するとともにグループ内での語り合う研修の場へ積極参加している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	種々の開放企画に加え、鯉のぼりや冬季夜間イルミネーションの実施などを通して理念の実践を心がけている。	○	地域から信頼され慕われる施設作りは何かをより一層努力してゆきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者のお散歩などで地域の皆様とお話しをする機会が増え、お花を差し入れていただいたりする機会が増えた。	○	施設側からと隣近所からの相互の日常のお付き合いの為に施設財産の有効な活用方法を探りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年度は地域開放企画を4回行いました。 ・“わらしな探検Day” 3回(BBQ、活け花教室、栄養士による特別食ランチ) ・“わらしなDay元気” 1回 介護者交流会	○	本年は5月19日(土曜日)に一周年記念企画“わらしなDayお祭り”を初めとして年4回程度の運営推進会議を含め交流計画を企画実施してゆきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	上記企画のうち、BBQでは歯科衛生士コーナーを向け花教室は高齢者の要介護の講師による教室で特別食はデイ栄養士が減塩食を食べ比べ実施し、地域の高齢者への情報と技術のフィードバックを実施している。	○	2年目の本年は昨年度の企画の検証を中心によりリファインされたものの提供を企画中。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設後、外部評価の機会が今回最初ではあるが、グループ・法人内の他施設との自主的な相互評価を行う機会を持ち、自己改善につとめる。	○	開設後初の外部評価を現場に活かすべく施設内会議で評価に対する具体的な施策を決め取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表の方々とは随時連絡を取り、運営推進会議に参加いただいている。それ以外にも活動報告など定期的な連絡を取っている。	○	地域代表以外にも幅広く参加を促す方法を考えてゆく必要が有ると考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各部署で地域開放企画を実施し、行政関係者へも連絡と報告を行っている。	○	より一層活用できる制度やサービスを探し、サービスの質と内容の向上に努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現実にこれらの制度を数名の方が活用する事で安定した生活を実現する事ができました。	○	同上
0	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や拘束といった事は身体的に限らず心理的にも有る事を種々の資料や会議の場で伝達・認識を促し、グループのケア委員会活動での接遇強化の実施や施設全てのフロアの鍵を開放し完璧を求めている。	○	虐待や拘束といった点の職員認識を深める為、より一層積極的に外部研修に職員を送り出してゆきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	利用者家族と施設職員の1対1での契約にならないよう、最低でも管理者・計画作成担当者と所長のように複数での説明と契約を行うよう努めている。	○	契約書類や契約時説明マニュアルの必要があれば作成してゆきたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会・運営推進会議やご家族来訪時のご意見の尊重とともに、一人ずつのお客様に居室担当を付けご家族が相談しやすい体制を設けている。	○	居室担当制について内容を精査してゆく時期にあると考えている。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月末に居室担当が一ヶ月の生活状況を手紙で報告している。</li> <li>・毎月の写真広報をお届けしている。</li> <li>・病院受診時に医師連絡票で健康状況の連絡を医療機関とともにご家族にも伝えている。</li> </ul>	○	現在の方法でのご家族満足度を調査し、より良い方法を見つけてゆきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会・運営推進会議やご家族来訪時に所長や職員が極力言葉を交わす機会を設け、ご意見の尊重とご家族が相談しやすい体制に努力している。	○	現在の方法でのご家族満足度を調査し、より良い方法を見つけてゆきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月、各フロア会議(2F会議と3F会議)とグループホーム会議、更にデイサービスとの施設全体会議を開催し職員間で意見を募っている。	○	継続してゆきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	2F/3Fの原則配置以外に状況に応じてフロアを跨いでの援助勤務体制と所長をはじめとした他部署相互援助体制を取り、柔軟対応している。	○	各フロア責任者やリーダーの配置を行い、組織的で柔軟な勤務調整が実施できる状況を作ってゆきたい。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	現在まで、法人内異動以外の職員退職は皆無に近い状況であり、鋭意努力をしている。	○	離職率ゼロは不可能であっても、出来る限りの種々の努力と工夫は行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・グループ内研修への職員派遣と資格取得研修参加の為の希望休を優先的に調整する。	○ 本年度新設のリフレッシュ休暇制度も有効活用し、内部外部研修へより一層参加しやすくするとともに、職場内勉強会の機会も設定してゆきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設独自開催のイベントや勉強会を開催し、一般住民と同業事業者への告知で相互交流を図る。 ・“わらしな探検Day”、“わらしなDayランチ”を主催。 ・他事業所主催のお祭りや研修会への参加。	○ 今後も企画を実施するとともに、他事業所の企画にも積極参加してゆきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	お客様との外出やお楽しみ企画を積極的に計画する事で施設内での閉鎖的な介護環境から利用者・職員を解放し、おらかな関係作りと気が付いていない意外な過去生活歴や人間性を知る事で多様な人間関係を持てるようにする。	○ 積極的な外出は同時に事故の危険性をはらんでいる為、安全確保とご家族同意をより一層的確かつ確実に行っていく注意をしてゆきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年度を上期と下期に分け、目標管理制度と評価制度を設けている。 またグループ内での研修・交流会・研究会に積極参加させモチベーションアップを計っている。	○ 職員のモチベーションの維持と向上に有効策を模索してゆきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の見学・体験グループホーム、併設のデイサービス利用等を通して本人と話しをする機会を作っている。	○ 今後も継続して取り組みたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学・申し込み時にお話を聞いた後、来所していただきインタビュー面談、ご本人宅を訪問しての面談と最低3回は面談の機会を設けている。	○ 今後もより洗練し、継続して取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ 併設のデイサービスの利用などのサービスを紹介している。 ・ 同法人、他法人を問わず近隣の他施設やサービスを紹介している。	○	他のサービス事業所との連携の強化。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人に見学に来ていただいたり、併設のデイサービスと協力し、ご利用時に一部の時間をグループホームで過ごしていただいたりしている。	○	デイサービスの利用者がグループホームに入居する際の連携方法を確立したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホーム内での家事を行う際に入居者様にアドバイスと助力を求め一緒に行う。 (洗濯物の畳み方、料理、裁縫、着付けなど)	○	積極的に入居者の意見を取り入れたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・ 原則として病院受診の付き添いはご家族に依頼しており、お客様の外出へのお誘いも依頼している。	○	今後も継続したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・ ご家族が面会に来ていただいた際などにご本人とご家族の関係や色々なお話を伺っている。	○	同上
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ 各居室にはご本人の使い慣れた家具や小物類を置いていただくようにしている。 ・ 面会や一緒の外出を積極的にお願している。	○	同上
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・ 話しが噛み合わない事がないように職員が通訳役をしている。 ・ レクリエーションの時など1人1人に声掛けし盛り上げている。	○	同上

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今春4月に初めて退所の方が出ましたが、退去後の状況把握方法に苦労している。	○	退所後の状況把握を確立したい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に1度はカンファレンスを開きスタッフ1人1人が把握している情報の共有化を計るよう心がけている。	○	今後も継続してゆきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ インテーク時に生活歴などを確認している。 ・ 入居後、必要と思われる事柄に応じて面会事などにご家族確認している。	○	同上
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・ 入居前にご本人宅を訪問し、日常の過ごし方の把握に努めている。 ・ 入居前に必ず医師の診断書を揃えてもらっている。	○	同上
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の会議でケアプランへの意見を出し合っている。ご家族には面会時や手紙などで意見を尋ねている。	○	今後も継続してゆきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の会議でケアプランの見直しを行っている。	○	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ ケース記録、介護記録に記入する。 ・ 排泄や行動チェック表など個別に記録をとるようにしている。	○	・ 個人記録をより丁寧に作成する。 ・ 個人個人の必要に応じたチェックシートを作成する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・ デイサービス栄養士による栄養管理された平日昼食の準備 ・ デイサービスと合同でのレクリエーション ・ デイサービス看護師による健康管理と機能訓練指導 ・ 居宅ケアマネによる介護サービス相談(福祉用具など)	○	今までより一層柔軟な対応を探りたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ 不穩外出時など、地域交番の警察官の協力を得ている。 ・ 地元保育園との交流。	○	本年は当施設自身を地域の中の資源として活用してゆく方法を探りたい。 ・ 施設開放企画 ・ 施設を使用した勉強会
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のデイサービス、グループホーム等地域事業所と施設イベントを中心に職員や利用者交流をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、運営推進会議の案内と報告程度の協働状況。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族付き添い受診を基本としているが、状況に応じて往診いただいたり、緊急時には職員・看護師付添いの下で医療機関受診を行い、早期発見・早期対応に努めている。	○	今後も継続して取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医(かかりつけ医)との間で受診時には事前に『医師連絡票』を使い生活状況を伝え、相談・診断・治療をお願いしている。	○	今後もより洗練し、継続して取り組みたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・デイサービス看護師が医療連携体制を取り健康管理と相談に対応している。 ・デイサービス看護師による健康管理指導と機能訓練指導		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医(かかりつけ医)と緊急対応救急病院を一人一人のお客様毎に機会のある際に整理し、常時の連絡を取るよう心がけている。	○	現在、安定期にある方についても加齢によるレベルダウンが来る事を前提に、体制を整えてゆきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループ内特養の看取りの指針を参考に職員の意識を持つようには心がけてきた。	○	一年を経てグループホームで週末を迎える方が出てきた事でより一層、重度化・終末期化への職員意識と対応方法、準備をしてゆく重要さを実感している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急性期病院・主治医クリニック・家族・施設との連携で取り組んだ方・取り組んでいる方が居る。 ・もしかすると最後になるかもしれない思い出を大切にしたい。	○	・何ができるのか？ ・何を望んでいるのか？ を把握できるようになりたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在のところは、他施設への退所は無く、受け入れ時の住み替えダメージの軽減のみを考え、対応している。	○	療養型病床への最終末期での入院を前提に検討に入っている。“終末期どこまで看れるのか？”が前提であり先ずそこからはじめたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・ 申し送りは事務室、会議はダイフロアを使用し個人情報の扱いへの配慮をしている。	○ 今後も継続したい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	根気よく話を聞いたり、逆にこちらからの話しも何度も繰り返して本人の理解を得るように努めている。	○ 同上
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『○○時頃に△△する』という大概な程度にしかスケジュールは決めておらず、その時に応じて柔軟に対応している。	○ スタッフの中には『○○時迄には入浴を終わらせなくては…』と思い込んでいる職員も居るので、全員が柔軟に対応できるようにしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・ 個人個人の持参いただいた衣類を着ていただいている。 ・ 理美容サービスは出張サービスを依頼している(ご家族と外部利用の方も有り) ・ ご本人が使い慣れた化粧品を一緒に買いに行っている。	○ 理美容は出張中心で良いのか検討してゆきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや配膳、食器洗い等を一緒に行っている。	○ 今後も継続したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	原則 施設内は禁酒・禁煙としており、たばこなどの嗜好は施設側のルールに則って楽しんでもらうようにしている。	○ 同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄が自立していない時は「排泄チェック表」を利用して排泄パターンを掴むようにしている。	○	同上
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施。 ご本人の希望に合わせて入浴を行っている。	○	同上
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人が『もう寝る』という意志を示した時に居室誘導している。	○	同上
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	定期的に体操やレク活動を行っている。 掃除などの家事を一緒に行っている。	○	同上
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出る時、個人のおこずかいはスタッフが管理しているが、支払いなどはご本人にやってもらうにしている。	○	同上
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や買い物に出ている。	○	同上
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人一人が行ってみたい所の把握は出来ていない。	○	普段の生活とは違う外出やイベントを企画してゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1F事務室で電話をかけてもらっている。	○	今後も継続したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者には個人個人の居室でゆったり過ごしてもらっている。	○	同上
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設期には身体拘束に関する意思統一のための話し合いを開催した。また、関連資料や記事が有ると積極的に回覧している。	○	“スピーチロック”などに代表されるメンタル的な拘束の理解に取り組んでゆきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当施設は『開放型』の施設であり、内部から外部へ出れなくするための設備を一切持っていません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	『開放型』の施設であるが故の注意を払い、職員の定期的な目視点呼などで各フロアを自由に行き来しているお客様の所在確認をしている。	○	より良い方法を探る努力をしてゆきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・個人居室への持ち込み禁止は、刃物・火気としているが、他は状況に応じてご家族と話し合い対策を講じている。 ・入居時個人所有物のチェックをしている。	○	・個人所有物の管理方法に関してご家族と話し合い、方法を検討してゆく時期に入っていると認識している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	『事故・状況報告書』『ひやり・はっと報告書』の回覧と『医療連携記録簿』の毎日の確認と、定期会議の中での対策会議を通して事故防止に取り組んでいる。	○	一年間の様々な状況を分析し、TOTALとして対策を立てる必要の出ている時期であると認識している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・職員緊急連絡網を整備している。 ・緊急時は 所長、看護師への24時間連絡を基本としている。 ・緊急通報訓練を実施した。	○	より良い方法を探る努力をしてゆきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・緊急災害訓練の実施。 ・ヘルメットの整備。 ・地元消防団との関係性。	○	より一層安全への努力をしてゆきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・主治医と連携し、体調変化に応じた話し合いを持っている。 ・生活状況の変化に合わせ、ご家族や医療機関と連携を取るよう心がけている。	○	より良い方法を探る努力をしてゆきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・医療連携体制を取り、『医療連携記録簿』で看護師と介護職間で情報共有をしている。	○	『医療連携記録簿』をより分かりやすいものにしてゆきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方されている薬の“お薬情報”をファイリングし、必要なときすぐに取り出せるよう保管してある。	○	今後も継続したい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・介護記録への水分摂取量の記載 ・午前中を中心に体操を行う。		同上
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後にうがいを促す。 ・朝晩は歯磨きを促している。 ・入歯の方(自己管理出来ない方)はスタッフが預かり洗浄している。	○	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べられる量を把握し、盛付け時に量を調整している。	○	今後も継続したい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・水周り消毒（次亜塩素酸で消毒） ・排泄介助後の消毒（ウェルパス） ・外出後の手洗いとうがいの実施	○	白癬菌（水虫）感染対策を講じたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品は夜勤帯で消毒を実施。	○	今後も継続したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・深夜～早朝時間帯以外の施錠をしない。 ・夜間の玄関照明の点灯 ・自由に使えるスリッパラックの設置	○	玄関の照明を明るくして、明るい雰囲気を作りたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・食堂、リビングに寛いで座れるソファを配置している。 ・お客様の希望で畳スペースを広く確保するべく改造実施を行った。	○	季節毎の装飾品（ひな飾り・五月人形など）を常時飾れるスペースの確保をしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人で寛いで座れるソファを複数配置し、和やかな空間を作るように努めている。	○	浴室前のスペースがデッドスペース化しているので有効活用したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使っていた馴染みの家具類や好きな物を持ち込み居心地の工夫をしている。	○	今後も継続してゆきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・エアコン類は基本的にはスタッフが管理し、温度と湿度調節に気をつけている。 ・常時換気に努めている。	○	同上
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	布団の生活に慣れている方はベッド使用を強制せず、居室を和室化改造するなどし布団の利用が可能な状態を作っている。	○	フロアスペースが狭いので家具の配置などを再度検討してゆきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室の表札は字を大きくしたり、写真を飾ったりし、ご本人に分かりやすい工夫に努めている。	○	継続してゆきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに鉢植えを置き、入居者と一緒にお世話をしている。昨年はトマトやブルーベリーなどの収穫もできた。	○	・2Fにある広いスペースのベランダをより有効に活用したい。 ・デイと共有の庭の活用方法を検討したい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)